



秋吉台の観光の可能性

山口大学経済学部 教授 朝水 宗彦

秋吉台にはカルスト台地や鍾乳洞など、良く知られた観光資源が存在し、この地で開催されるイベントも数多くある。筆者は観光政策学科に所属していることもあり、仕事柄学生ボランティアの依頼を受けることも少なくない。観光政策学科でもまた、「プロジェクト演習」を通じ、教室を離れた授業の一環として、観光を実践的に学んでいる。

秋吉台に関連する例を挙げると、2013年以降、山口大学の学生ボランティアがフォトロゲイニングや赤間関街道WALK、秋吉台火道づくり等の補助作業、学生おもてなしコーディネーター事業による秋芳洞商店街のイベント企画・運営を行ってきた。さらに、2014年には美祢市観光協会主催で留学生によるモニターツアーが秋吉台にて実施されている。

他方、2015年に隣接する長門市の元乃隅神社が外国人観光客に大ブレイクして以来、山口県内の市町や民間企業から、将来のインバウンド観光の発展を目指すためのデータ収集として、留学生向けのモニターツアーの依頼が急激に増えた。新型コロナの影響で、さすがに2020年度は筆者にはモニターツアーの依頼はなかったが、ここで、これまでの留学生モニター状況の振り返りたい。

まず、従来の留学生モニターツアーだが、日本人の企画者が、日本人観光客によく知られている観光地に、仮想インバウンド観光客として留学生を連れていくことが多かった。しかし、かつての元乃隅神社のように、日本人にそれほど知られていなかったところが急に外国人に注目される可能性もある。そのため、近年では訪問先の選定の段階から留学生が加わることも少なくない(図1)。

さらに、従来の留学生モニターツアーでは、地方自治体や民間企業から依頼されることが多かったが、近年では学生が自主的に企画・運営することも少なくない。例えば、2019年度には山口大学の「おもしろプロジェクト」の自主予算を活用し、日本人学生と留学生の混成グループが美祢・長門・萩へのモニターツアーを実施している(図2)。

なお、これらのモニターツアーはコストの都合もあり、バスを使うことが多かった。しかし、今後は新型コロナ対策も考えなければならず、なおかつ観光自体も密を避けた少人数の形態が望まれている。今後の課題として、With / Afterコロナ時代における秋吉台の新たな観光を模索するため、レンタカーやレンタサイクル等を活用した、より少人数に対応可能なモニター調査に期待したい。



美祢市観光協会での打合せ



秋吉台での留学生によるモニターツアー

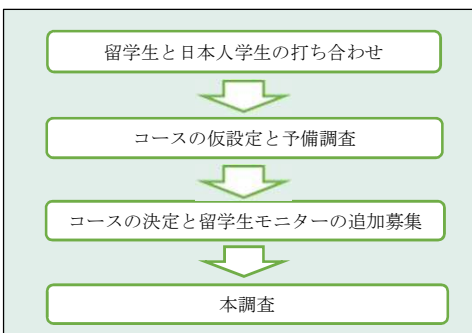


図1. 学生企画型モニター調査のフローチャート

引率教員	留学生	留学生	留学生	留学生	留学生
日本人ボランティア 1	留学生	留学生	留学生	留学生	留学生
日本人ボランティア 2	留学生	留学生	留学生	留学生	留学生
日本人ボランティア 3	留学生	留学生	留学生	留学生	留学生

図2. モニター調査の班分けの例

参考文献

Asamizu, Munehiko (2014) "A Challenge for Rural Tourism Attraction: Case Study of Mine City, Yamaguchi Prefecture", http://www.iajs.net/newsletters_no10/20.Asamizu.pdf

朝水宗彦編 (2015) 「平成26年度 山口大学・美祢市観光協会 合同セミナー報告書」山口大学経済学部

朝水宗彦編 (2018) 「シンポジウム：持続可能性の視点から考えたジオツーリズム」山口大学経済学部

朝水宗彦編 (2020) 『インバウンド観光と留学生』くんぶる

山口大学赤郷地域応援サポーター編 (2014) 「赤郷地域学生ボランティア報告集」山口大学経済学部

山口県 (2014) 「集落支援事業取組大学活動報告集」

https://www.yamaguchi-chusankan.jp/files/kiji/73_daigakushien_houkokusyo.pdf